

⑤Int.Cl.

H 04 n

H 05 k

H 01 f

⑥日本分類

97(5)E 42

97(5)G 0

96(1)A 3

56 B 13

日本国特許庁

⑪実用新案出願公告

昭47-4043

⑩実用新案公報

⑫公告 昭和47年(1972) 2月12日

(全2頁)

1

⑬フライバツクトランスの高圧リード線保持装置

⑭実 頼 昭43-100887

⑮出 頼 昭43(1968)11月19日

⑯考 案 者 岩沢淳一

東京都大田区西六郷3の26の1

1電気音響株式会社内

⑰出 頼 人 電気音響株式会社

東京都大田区西六郷3の26の1

1

図面の簡単な説明

第1図は従来のフライバツクトランスに於ける高圧リード線保持装置の説明図、第2図は本考案の高圧リード線保持装置を有するフライバツクトランスの保護筐体の斜視図、第3図及び第4図は本考案の要部拡大図である。

考案の詳細な説明

本考案はフライバツクトランスに於ける高圧リード線の保持装置の改良に関する。

従来は、第1図に示すように高圧リード線1をブシユ3の貫通孔を通して筐体1の外部に引出すが、高圧リード線1は十分な安全性を得るために厚い絶縁被覆を有しており、柔軟性が乏しいものである。従つて、フライバツクトランスを筐体2に収容する時、フライバツクトランスの保護筐体2に設けた凹部3に、高圧リード線1を通したブシユ4を嵌合する作業が円滑に行なわれない欠点があつた。

本考案は上記欠点を除去するもので、フライバツクトランスコイルを保護筐体に収容した後、高圧リード線を保持することを目的とする。

以下本考案の実施例を図面により説明すると、フライバツクトランスの端子板5にはコアーに装着したコイル6が固定され、更に高圧整流管ホルダー7が固定されている。高圧整流管ホルダー7には(図示しない)整流路が取付けられており、高圧コイルに発生した電圧を整流し、高圧リード線1を通して、(図示しない)陰極線管のアーノ

2

ドに供給する。フライバツクトランスコイルを収容する保護筐体8は絶縁材料によつて成型され、外部との不本意な電気的結合を防止する。保護筐体8の開口端縁部20には高圧リード線1を所定の位置に定める保持装置9が設けられている。この保持装置9に於いて、一方の側縁は2枚の平行板10, 11からなりU字溝12を成型する。外側の平行板11は角部分13のフランジによつて外側に向け矢印14の方向に開くことができる。

また他方の側縁には折曲げられて筐体8の壁面から外側へ向けほぼ直角に伸びる側壁蓋15を設ける。この側面蓋15は矢印17の方向にフランジ部16から折曲げられ、その先端はU字溝12に入り第4図の態様に固定される。保持装置9の下側には高圧リード線1の半周を収容する凹部18を設け、側面蓋15には高圧リード線1の他の半周を収容する凹部19を設ける。

而して、フライバツクトランスコイルを保護筐体8に収容したとき高圧リード線1を保護装置9に通し、このとき保護装置9は第3図の態様であるが、平行板11を矢印14の方向に開き、側面蓋15を折曲げてU字溝12に入れ、その後平行板11をもとの位置にもどす。即ち第4図の態様になり高圧リード線1を挟持する。

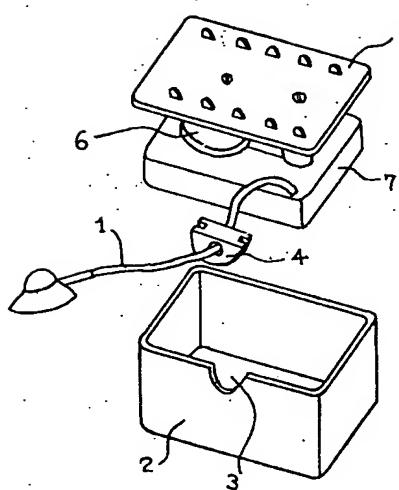
本考案は上述の如く、筐体8の成型と同時に設けた保護装置9によつて所定の位置に高圧リード線を固定するから、高圧リード線の柔軟性を考慮すると、フライバツクトランス組立作業を促進するのに役立つものである。

30 実用新案登録請求の範囲

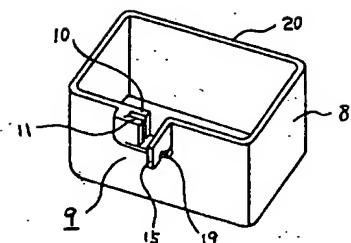
フライバツクトランスコイルを収容する保護筐体8の開口端縁部20に一方の側縁は2枚の平行板10, 11からなるU字溝12を有し、他方の側縁は前記筐体8の外側に折曲げた側面壁蓋15を有し、下側は高圧リード線1を収容する凹部18を有する前記リード線1の保持装置9を成型して前記側面蓋15の先端部を前記U字溝12に挿入することにより前記リード線1を挟持する如く構成したフライバツクトランスの高圧リード線保持

装置。

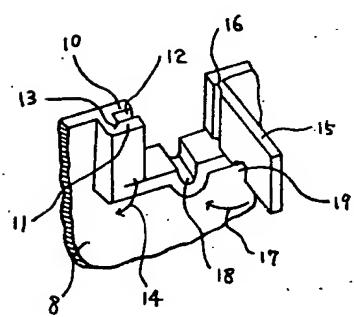
第1図



第2図



第3図



第4図

